

袋川沿いに憩いの空間が完成

3月25日(土)、袋川沿いの桜土手の整備工事が完了し、地元のみなさんなど約80人が出席し、竣工式が開催されました。関係者によるテープカットが行われた後、出席者たちは間もなく開花を迎える桜の下、日進小学校児童によるバンド演奏を聞きながら、通り初めを行いました。また、この整備工事に協力のあった「袋川をはぐくむ会」の要望により設置された「御用石(大水の際、橋の流出を防ぐために橋脚に縛り付けられた石)」が披露され、通りがかった人は興味深そうに眺めていました。

「旧袋川」は、4月13日に「袋川」へ名称変更されました。



佐治町総合支所

「交通安全に一役」と、マスコット寄贈

3月23日(木)、鳥取市老人クラブ連合会佐治町支部女性部(長谷亀子部長、部員333人)から佐治町総合支所へ「交通安全の啓発に役立ててください」と交通安全マスコット300個が贈呈され、前部長の岡本桂子さんから前田支所長へ手渡されました。この取り組みは今年で3年目となり、「山陰路ゆっくり走ろう安全に」のメッセージが添えられた今年の干支「犬」のマスコットが交通安全を呼びかけています。



河原公会堂 ほか

懐かしの「かわはら」を展示

かつての上方往来(通称旧道)のにぎわいを復活させ、地域の活性化を図ろうと、3月31日(金)から4月2日(日)までの3日間、河原公会堂周辺で「昭和絵巻かわはら」が開催されました。これは、地元の有志で作る「上方往来活性化準備委員会」が企画したイベントで、ライトアップした夜道沿いに、ひな人形や旧道にまつわる写真のほか、懐かしいレコードや雑誌などが展示され、訪れた人たちは昭和の思い出に浸っていました。



因幡万葉歴史館

優雅な歌詠みのひととき

4月1日(土)、因幡万葉歴史館で「第8回曲水の宴」が開催され、こくふ短歌会(西尾宣子会長)のメンバー約20人が色とりどりの万葉衣装に身を包み、万葉貴族の優雅な歌遊びを再現しました。この「曲水の宴」は、庭の水の流れに上の句を書いた色紙を載せた杯を浮かべ、下流で受け取った人が即興で下の句を詠むという、中国から伝わった貴族の遊びです。穏やかな春空の下、ふたつのグループに別れて歌を完成させた参加者たちは、豊かな感性にあふれた作品を朗々と詠み上げていました。



花見橋 ほか

華麗な舞、満開の桜と競演

4月8日(土)と9日(日)の2日間にわたって、「第7回鳥取三十二万石お城まつり」が袋川に架かる花見橋一帯で開催され、多くの見物客で賑わいました。今年は桜の咲く季節に合わせ、「第17回ふるさと鳥取桜まつり」と同時に開催され、おなじみの時代行列や火縄銃実演のほか、花見橋を舞台とした「花見橋宴の舞」ではさまざまな郷土芸能が披露されました。訪れた人たちは満開の桜の下での華やかな舞や踊りに、惜しみない拍手を送っていました。

